



TITLE:

## 第34回岐阜外科集談会

AUTHOR(S):

---

CITATION:

第34回岐阜外科集談会. 日本外科宝函 1965, 34(4): 1106-1108

ISSUE DATE:

1965-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/206500>

RIGHT:

## 第34回岐阜外科集談会

日時 昭和40年1月27日午後5時30分

場所 岐阜医大C講堂

## 1) 教室に於ける小児外傷の統計

岐阜医大第1外科

種田耕三

我々の教室に入院せる15才以下の小児患者の昭和30年から昭和39年までの統計をまとめてみました。症例数が少なく外傷と云う性質上社会的ファクターが入り込んで複雑になり臨床的立場からはつきりした傾向はつかめませんが外傷は年々やや増加の傾向にあり年令的には母親の手から離れはじめの1才から5才に圧倒的に多く性別でも男性が女が女性に比べ2.5倍となっている。原因別では交通事故、転落、火傷の順になり成人に比べ火傷によるものが多い。又交通外傷では、頭部、四肢に受傷するもの多く転落は頭部に多く受傷し火傷では四肢に多く受傷しています。四肢に受傷したものは、入院日数が長くなっているが腹部頭部に受傷したものは重症の割に、入院日数も少なく全治率も良いようです。

## 2) 教室に於ける小児のヘルニア及びイレウスの統計

岐阜大第1外科

小川孝一

小児の外科的疾患の中では重要な位置を占めているヘルニア及びイレウスについて、最近10年間に、教室で入院治療した15才以下の小児のヘルニア165例、イレウス47例の統計的観察を行なった。

特に症例数の多かった鼠径ヘルニア、腸重積症、鎖肛については、下記の如き項目につき、その傾向及び年代的推移を述べ、諸家の報告との比較検討を行なった。

鼠径ヘルニア……性別、左右別発生頻度、入院時年令、手術時年令、発病より手術までの期間、発病年令、治療、麻酔、合併症、ヘルニア嵌頓、予後、再発。

腸重積症……性別、注腸所見、術時所見。

鎖肛……性別、手術、予後。

3) 教室に於ける小児の炎症性疾患の統計  
(特に小児虫垂炎について)

岐大第1外科

説田周明

昭和30年から昭和39年の10年間に於ける小児炎症性疾患は入院患者119例ありそのうち90例は虫垂炎であった。虫垂炎総数715例中15才以下は12.5%を占める。又15才以下の総虫垂炎患者中0~5才は8.9%を占め最年少者は1才11ヶ月であった。性別は男子に多く発病時期は6~8月に最も多くみられた(40%)。

病型は単純性虫垂炎が50%を占めるが年少者では腹膜炎併発等重症例が多く見られた。

初発症状は回盲部痛が多く次いで上腹部痛悪心嘔吐が見られた。白血球数は各病型共、10000~15000が多く白血球数と病型との平行関係は見られなかった。

術式は常行性虫垂切除術が65.2%を占めた。術後合併症は死亡例はなく創部感染、遺残膿瘍等が全症例の10%に見られた。

## 4) 膀胱異物の症例

岐阜大泌尿器科教室

後藤 薫・篠田 孝・伊藤鉦二  
磯貝和俊・木村泰治郎・西守哉  
大谷文茂

膀胱異物は本邦に於いても多数報告されていますが、我々の教室でも昭和32~39年までの8年間に経験した11症例について報告した。自慰によるもの7例、術後のNahtsteinが4例となっている。自慰の症例は11才~20才までが5例、うち男3例である。Nahtsteinの症例はすべて女子で21~30才が3例となっており、手術分類では産婦人科術後が3例、泌尿器科術後1例であった。

## 5) 下大静脈後尿管の1例

岐阜県立岐阜病院泌尿器科

石山勝蔵

左鎖骨上窩の腫瘤を主訴として来院した、51才男子

につき、之を転移性腫瘍と考え、原発巣探索中に偶然右水腎症を発見、之が下大静脈後尿管によるものと、術前に逆行性腎盂撮影及び下大静脈撮影にて診断し、手術により確認した。

なお、腫瘍は後胸骨部に発生した細網肉腫及びその転移であり、之らは<sup>60</sup>Coの照射にて縮小、消失した。又、後腹腹腔には腫瘍は認めず、下大静脈と尿管の交叉部附近の線維性癒着は極めて強度であつて、太い異常血管も多く認められ、感染性水腎摘出術を行なつた。

#### 6) 極めて稀な腎腫瘍の1例

岐阜市民病院泌尿器科

尾 関 信 彦

39才女性に発生した腎の Angiomyolipoma の1症例を報告した。

約20日前より右側腹部痛を主訴とし、虫垂炎として虫垂切除術等その他の治療を受けるも軽快せず、膀胱症状等いない。

体格中等度、栄養佳良、右腎は腫大し表面やや不平、弾性硬、境界鋭、移動性は少ない。IVP、Rp等にて右腎腫瘍と診断し右腎切除術を施行した。剔出腎は650g、腫瘍は腎下半部を占めるオレンジ黄色、という様、無定型で一見して非常に脂肪に豊む。

組織学的には血管、平滑筋、脂肪組織の三要素より成り立っている Angiomyolipoma であつた。

併せて文献的考察を行なつた。

#### 7) 術後抗生剤使用によると思われる顆粒白血球減少症の1例

岐阜医大第2外科

大橋広文・斉藤 晃

68才男子、胃ポリープにて、胃切除術を行ない、術後、ゾルマイシリン1日量4cc(ペニシリン80万単位、ストマイ1g含有)12日間使用した所、術後12日目より、食欲不振、猩紅熱様発赤、39.1℃の発熱、扁桃発赤腫脹、白血球数2100、好中球6%となり、典型的顆粒白血球減少症を来した。強力な化学療法、プレドニンを使用したが発病後6日目に死亡した。

ペニシリン皮内反応は陰性であつた故、ストレプトマイシンによりおこつたと思われる非常にめずらしい症例と考えている。

#### 8) 診断困難なりしS状結腸癌の3例

岐阜市民病院外科

島田 脩・安江幸洋・加賀谷 稔

##### 1) 39才の男子

2日前より腹痛、悪心あり急性炎症症状著明にて虫垂炎の疑にて開腹した所S状結腸癌の穿孔であつた。

##### 2) 43才の女子

3ヵ月前より下痢、粘血便あり肛門指診により約6cmの部に腫瘍を認め直腸癌の診断の下に手術を行なつた結果S状結腸癌の重積であつた。

##### 3) 31才の男子

2年前より排便時出血あり、時々粘液を混ず、レントゲン検査所見陰性、肛門指診により鳩卵大の腫瘍を触知する。粘膜正常、腰麻の下に双手診断にて腹腔内腫瘍なることを知り手術結果S状結腸癌であつた。

#### 9) 異所性腚組織による小腸重積症の1例

岐阜県美濃加茂市太田病院

佐々木録三郎・佐々木 英

岐阜大学医学部第1外科(鬼束惇哉教授)

田 原 浩 明

8ヵ月の男児で、不気嫌、食欲不振、嘔吐便秘を主訴として来院し、臍の左上部に限局性の膨隆、同部に鳩卵大の腫瘍を触知し、腹部単純レ線検査により、小腸ガス像、並にSpiegelbildを認めた。イレウスの診断の下に直ちに開腹した所、トライツ氏靱帯より、約120cmの部に小腸重積を認め、重積部で、腸間膜附着部の反対側に小指頭大の腫瘍を認めたので、同部を切除し、組織学的に副睪を認めた。

以上異所性睪組織を先駆として重積が起つたと考えられる小児の1例を報告し若干の文献的考察を加えた。

#### 10) 強い頭部鬱血症を呈した benign toxic goiter の1例

岐阜医大第2外科教室

三尾六蔵・山口三千夫

最近、良性的毒性慢性甲状腺腫があつて脳脊髄液圧260ミリ水柱を示し、眼科的にも鬱血乳頭を証明した症例を経験した。

手術時、頸部静脈系の血行停滞を認めたが、甲状腺切除を行なつて、すぐ脳脊髄液圧の約60ミリ低下を認

めた。

術前術後の神経学的検査からも、頭蓋内に脳脊髄液圧亢進を起させると思われる障害を認めず、術後は軽度の鬱血乳頭のみを残して頭部鬱血症は速やかに消失した。

文献上で、内頸静脈を切断した場合の脳脊髄液圧の変化についての報告と比較し、簡単な考察を加えた。

### 11) 頭蓋骨奇形を伴った V. Reckling-hansen 氏病の3例

岐阜大第2外科

山村 喬・星野睦夫・松岡敏彦

症例1: 2才5ヵ月♂。主訴: 左側頭部無痛性腫

脹。全身色素母斑に加えて、腫脹部の中央に3×4cmの腫瘤触知し、その直上に1×2cmの骨欠損あり。又 Sattelgrube の変形を認めた。

症例Ⅱ: 39才♀。主訴に後頭部及右頸部の無痛性腫脹。全身色素母斑。右耳介下部より頸部に至る手掌大腫瘤あり。後頭部に不規則な12.5×10.7cmの骨欠損あり。組織学的には Neurofibrosarkom であつた。

症例Ⅲ: 20才♀。主訴: 左頭頂側頭後頭部の無痛性腫脹。同時に3×3cmの骨欠損あり。骨欠損の周囲に数コの腫瘤を認めた。

上記3例とも腫脹部に一致して象皮様皮膚増殖を認めた。

## 第35回岐阜外科集談会

日時 昭和40年3月17日午後5時30分

場所 岐阜医大C講堂

### 1) 種々の奇形を伴った膀胱外反症の1例

岐阜医大第1外科

渡 辺 祥

患者、生後1日の新生児。主訴、下腹部の異常。昭和39年8月23日満期安産、体重3200g下腹部に上縁は臍輪に接し、下縁は外陰部に移行する5.5×3.0cmの外反膀胱粘膜を認める。外陰部は一見女性様で陰裂上部に横に並んだ2個の小孔があり尿を漏出する如く見られて、湿潤、また下部に1個の小孔より糞便を排出する。フローセン全麻の下に粘膜外縁を剝離し正中線上にて縫合、膀胱腔を形成する。術後創面感染し、粘膜部は徐々に膨隆して手拳大となり39病日死亡。剖検・外陰部上方2個の小孔は膣口で中隔陰性中隔二重子宮である。下腹部膨隆部は完全前額隔壁膀胱の後部盲端部で拡張した右尿管が流入し右腎膿症を形成、その前部が完全膀胱外反症を来し左尿管は外反粘膜内に閉口していた。その他尿道無形成恥骨離開、総腸間膜症、胸椎破裂、右耳介奇形を伴った。

### 2) 興味ある尿石症の症例

岐阜市民病院泌尿器科

尾 関 信 彦

#### 1) 15才少女に発生した大きな膀胱結石

剔出結石重量110g、断面な層状構造をなし中心に核となる異物の如きものは見当らない。成分は磷酸塩であつた。

#### 2) 両側尿管末端部結石

23才女子。腹痛及び乏尿を主訴とする。IVPで右腎の排泄みず、左腎は著明水腎症を認める。両尿管末端部に小指豆大結石陰影あり。腹部正中切開にて両側尿管切石術を施行する。術後尿量正常となり、IVPにて両腎機能良好で腎盂、腎杯、尿管の形態正常となる。

#### 3) 両側重複腎盂尿管を伴う馬蹄鉄腎の尿管結石

17才男子で左睾丸部痛を主訴とする。検査の結果上記疾病を発見し、保存的に治療し結石の自然排出を見た。

以上3例につき、その経過及び文献的に観察し種々検討を加えた。

### 3) 副腎性器症状群の1例

岐阜医科大学泌尿器科教室

大 原 子 蔵

患者17才の女、主訴: 男性化、

家族歴: 妹も従姉妹1人に男性化を認める。現病歴: 幼時より外陰部の異常に気付いていたが12才頃より男性化を認め最近この傾向は殊に著明となつた。検査結果では Sex chromatin 陽性、ACTH test 陽性、